



# 名物講義!

## 第3回

伝統文化をつくる(普遍教育センター 教養展開科目)  
担当・柴佳世乃先生、兼岡理恵先生、小笠原匡先生

### 担当教員のプロフィール

柴佳世乃先生

千葉大学文学部教授(日本文化学科・中世文学専攻)

お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士課程(比較文化学専攻) 単位取得退学(博士)

兼岡理恵先生

千葉大学文学部准教授(日本文化学科・古代文学専攻)

東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻日本語日本文学専門分野博士課程 単位取得退学(博士)

小笠原匡先生

千葉大学客員教授 鼓童講師 鶯流研究会指導講師 劇団東俳講師  
能楽師和泉流狂言方、日本能楽会員、重要無形文化財総合指定保持者、能楽協会会員

### 講義レポート

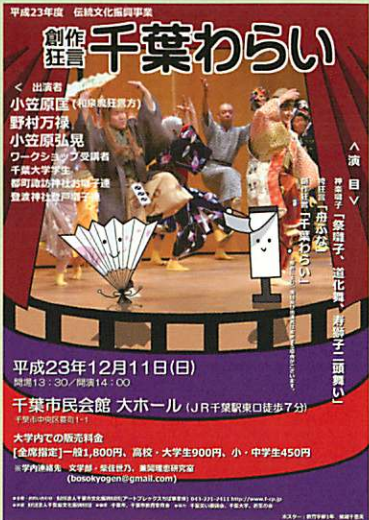
教壇に立つ小笠原先生、学生と同じ席から同じ目線で授業に参加する柴先生、兼岡先生という形で講義は進められます。

今回聴講させていただいた講義は、「鬼の来迎」という実際に上演された狂言を題材とした議論型の授業です。学生にはあらかじめ課題が与えられており、それぞれがその狂言に対する意見や改善提案を発表していきます。学生たちの意見に対し、プロの演者である小笠原先生は、よく通る声で、ジョークを交えながらコメントや解説を加えていきます。

最後には柴先生、兼岡先生からもコメントがあり、制作に向けての構想や制約などを含めて、さまざまな観点からの活発な議論がおこなわれました。

### 講義紹介

房総に伝わる文化や伝承をもとに、創作狂言を制作する授業です。狂言師である小笠原匡氏の指導のもと、伝統芸能を学びつつ台本作りや衣装・小道具の作成まで、舞台実現に向けてのさまざまな営みを共に考え、実践していきます。前期の担当は丸井敬司先生です。大学のある千葉のことをもっと知る、地域の人々と親しむことを通じて地域文化を育むという趣旨で平成21年度に開講されました。



学生が作成した「千葉わらい」のポスター

この講義では、狂言の歴史や背景などの基礎を学んだ後に、舞台班、宣伝班、展示班、小道具班に分かれた創作狂言舞台「千葉わらい」(千葉市文化振興財団主催)を制作しました。普通では味わえない、体験参加型の授業です。

### 担当教員からのメッセージ

地域をつくるためには地元や自分の居場所をよく知ることが重要です。現代の日本では疎かになりがちですが、講義を通じて千葉のことをよく理解してもらいたいと思います。

最終目的の創作狂言の公演が近づいてくると、学生たちから手こたえを感じるようになり、彼らの心の向かを揺さぶっていることを実感します。狂言の舞台を創るという異次元の世界を体験することで、自分で考えること、自分で表現することが身に付きます。日本で千葉大学でしか学ぶことができないこの授業、何か違うことをやってみたいと思う人はぜひ受講してみてください。



### 学生からのコメント

文学部日本文学系

2年 松川瑠里子さん

昨年から受講しています。前回は宣伝部長として、今回は演者として参加しました。宣伝活動は大学だけでは知り合えない、さまざまな職業の人のかかわりがあった後の人生にプラスになると思います。また、舞台上に立つことで度胸もつきました。

教育学部スポーツ科学課程

4年 安江 雅彦さん

千葉の伝統文化に触れることができました。大学は県外の学生も多いのですが改めて千葉を知ることができて良かったと思います。自分たちの活動を学長や理事の先生、各施設の方にアピールするのはなかなかない機会ですので、この経験が社会に出てからも役に立つと感じています。



柴先生、兼岡先生から授業のまとめ



学生から次々に鋭い意見が出てきます



小笠原先生はプロの狂言演者